

幼児の心身の健康に関する研究

— 幼稚園児と保育園児の遊びの調査(2) —

窪 龍子

井狩 芳子 (和泉短期大学)

野田 耕 (九州共立大学)

I. 目的

我々は幼児の生活状況全般を把握するため、2001年度以降、幼稚園児と保育園児の体格・体力、園児の生活時間や生活リズム、親の育児に関する意識、園児の遊び全般について、親と保育者を対象としたアンケート調査を実施している。

昨年度は、幼稚園児と保育園児の遊びの状況を比較検討した。その結果、生活時間の違いから平日の戸外での運動遊びの時間に有意差がみられたものの、両者間の遊びに大きな差はみられなかった。どちらの園児も戸外での運動遊びが最も好きな遊びであり、親もそのようにさせたいと望んでいるが、平日はテレビ視聴が多いという結果であり、休日には戸外での運動遊びとテレビ視聴が主な2つの遊びであった。

戸外での運動遊びには、そのための空間が必要である。今回、新たに調査したD保育園は、都心から50キロメートルほど離れた奥多摩地区にあり、休日には都心からハイキングを楽しむ人たちが賑わうような自然環境に恵まれているところにある。一方のB保育園とC保育園は、昨年度の報告でA幼稚園と比較検討した保育園であり、首都圏のベットタウンといわれる住宅地であって、近くには人工的に整備された公園があるという環境に設置されている。

本稿では、保育園の所在地の違いに注目し、保育園をとりまく環境の違いが園児の遊びに影響を及ぼしているかどうかを検証することを目的とした。したがって自然環境に恵まれたD保育園に対し、住宅地に位置するB保育園とC保育園をあわせて比較検討することとした。

II. 調査方法

1. 調査対象

本調査の対象は、東京都奥多摩地区にある私立D保育園の園児136名、神奈川県相模原市内の

私立 B 保育園の園児 76 名、同じく相模原市内の私立 C 保育園の園児 96 名、ならびにその保護者の合計 308 組の親子。各園のクラス担任保育者 12 名。園児の年齢はいずれの園でも 3 歳から 6 歳である。ただし、後述するように 3 歳児の調査結果は比較検討の対象からはずした。

2. 調査内容・調査方法および回収率

- (1) 体力測定（本稿では取り上げないので省略）
- (2) 運動量調査（本稿では取り上げないので省略）
- (3) 親に対するアンケート調査（調査用紙は参考文献 3 参照）

アンケートの内容は、①子どもと家族に関わる属性 ②親のスポーツ実施状況 ③育児に対する思い ④子どもの感情表出のようす ⑤友達との関係 ⑥きょうだいげんか ⑦生活リズム ⑧生活時間 ⑨遊びの種類と時間 ⑩遊びに関する親の意見など多岐にわたる。

アンケート用紙は、各園の園長とクラス担任の協力を得て封筒に入れて配布し、親には自宅で記入してもらい封をして各園に提出してもらった。

- (4) クラス担任保育者に対するアンケート調査（調査用紙は参考文献 3 参照）

担当している園児について、①体を使った遊びの好き嫌い ②自分から求める友達の人数 ③友達とのけんかの有無 ④感情表現 ⑤園生活を楽しんでいるか否かの 5 項目を質問した。記入の時間や場所については各担任に任せた。

3. 調査期間

体力測定は、D 保育園 2004 年 10 月 26 日、B 保育園 2003 年 10 月 28 日、C 保育園 2004 年 2 月 27 日に実施し、アンケートの回収は、原則として体力測定日の翌日から 1 週間後とした。

4. 実施率および回収率

調査対象となった園児は、3 保育園の園児 308 名であった。

- (1) 親によるアンケート
D 保育園の回答者数 80 名（回収率 58.8%）
B 保育園の回答者数 55 名（回収率 72.4%）
C 保育園の回答者数 64 名（回収率 66.7%）
- (2) 担任によるアンケート
回答者数 12 名（回収率 100.0%）

Ⅲ. 調査結果および考察

1. 園児と親の属性

- (1) 園児の所属・性別・年齢

園児の所属・性別・年齢については、表 1 に示した。この表からわかるように、年齢比率、男女比率に有意差が見られた。年齢比率は、奥多摩地区の D 保育園（以下 D 園）に 3 歳児が

多いことによる。これは3つの保育園の調査時期の違いによって生じた結果である。そこで、今回の比較検討の数値から、3歳児をはずすことにした。男女比率は、D園に男児、B保育園とC保育園（以下あわせてBC園）に女児が多いことによる。しかし一部の男児または女児を除外して同数にすることは作業としては簡単だが、除外の対象を選ぶことが困難であるため、3歳児を除いた集計結果を使用することとした（表2）。したがって園児の遊びに関して、必要な場合には男児女児を別々に集計した。

表1 園児の所属・性別・年齢

N(%)

	性別			年齢				
	男児	女児	計	3歳	4歳	5歳	6歳	計
D園	45 (59.2)	31 (40.8)	76 (100.0)	14 (18.4)	15 (19.7)	26 (34.5)	21 (27.6)	76 (100.0)
BC園	49 (41.2)	70 (58.8)	119 (100.0)	6 (5.0)	16 (13.4)	56 (47.1)	41 (34.5)	119 (100.0)
計	94 (48.2)	101 (51.8)	195 (100.0)	20 (10.3)	31 (19.7)	82 (34.2)	62 (31.8)	195 (100.0)
$\chi^2 = 6.04$ 自由度 1 p=0.014			$\chi^2 = 11.75$ 自由度 5 p=0.038					

表2 3歳児を除いた両園の男児女児の構成比 N(%)

	男児	女児	計
D園	36 (58.1)	26 (41.9)	62 (100.0)
BC園	46 (40.7)	67 (59.3)	113 (100.0)
計	82 (46.9)	93 (53.1)	175 (100.0)
$\chi^2 = 4.84$ 自由度 1 p=0.027			

(2) 親の年代・子どもの人数

親の年代・子どもの人数については、表3に示した。この表から分かるように、親の年代は30歳台が最も多く70.8%を占め、子どもの人数は2人というのが61.5%で最多であった。親の年代、子どもの人数についてD園とBC園の間には有意差はみられなかった。

表3 親の年代と子どもの人数

N(%)

	親の年代				子どもの人数				
	20歳台	30歳台	40歳台	計	1人	2人	3人	4人以上	計
D園	10 (16.4)	42 (68.9)	9 (14.8)	61 (100.0)	14 (21.2)	38 (57.2)	14 (21.2)	0 -	66 (100.0)
BC園	20 (18.2)	79 (71.8)	11 (10.0)	110 (100.0)	20 (17.7)	72 (63.7)	18 (15.9)	3 (2.7)	113 (100.0)
計	30 (17.5)	121 (70.8)	20 (11.7)	171 (100.0)	34 (19.0)	110 (61.5)	32 (17.9)	3 (1.7)	179 (100.0)

(3) 家族構成・住居形態

家族構成と住居形態は表4のとおりである。両園とも親と子からなる核家族が最多であるが、D園には祖父母を含む三世代家族の割合が多く、両園間に有意差がみられた。住居形態も同様で、D園には一戸建てに住む人の割合が多かった。その2項目の関係を有意差検定してみると表5のような結果が得られた。核家族の場合、集合住宅と一戸建住宅に住む家族が半々であるのに対し、三世代家族は一戸建てに住んでいる家族がほとんどであり、両者の間には有意差がみられたのである。つまりD園では、BC園に比べて、三世代家族で一戸建てにすむ家族の割合が多いということである。自然環境に恵まれ、住宅の密集地のないD園の地域特性を考え合わせると、予想されたとおりの結果といえよう。なお、両園とも7階以上の集合住宅に住む家族は皆無であった。

表4 家族構成と住居形態

N(%)

	家族構成				住居形態			
	親と子	祖父母・親子	その他	計	一戸建	集合住宅(1~3階)	集合住宅(4~6階)	計
D園	45 (68.2)	21 (31.8)	0 -	66 (100.0)	46 (73.0)	17 (27.0)	0 -	63 (100.0)
BC園	88 (79.3)	16 (14.4)	7 (6.3)	111 (100.0)	54 (49.5)	42 (38.5)	13 (11.9)	109 (100.0)
計	133 (75.1)	37 (20.9)	7 (4.0)	177 (100.0)	100 (58.1)	59 (34.3)	13 (7.6)	172 (100.0)
$\chi^2 = 10.84$ 自由度 2 $p = 0.004$					$\chi^2 = 12.85$ 自由度 2 $p = 0.001$			

表5 家族構成と住居形態のクロス集計

N(%)

	住居形態			
	一戸建	集合住宅(1~3階)	集合住宅(4~6階)	計
親と子	64 (49.6)	54 (41.9)	11 (8.5)	129 (100.0)
祖父母・親子	34 (94.4)	2 (5.6)	0 -	36 (100.0)
その他	2 (33.3)	3 (50.0)	1 (16.7)	6 (100.0)
計	100 (58.5)	59 (34.5)	12 (7.0)	171 (100.0)
$\chi^2 = 24.52$ 自由度 2 $p = 0.000$				

2. 園児と親の起床時間と就寝時間

平日の園児の起床時間と就寝時間は表6のとおりで、起床時間は7時台が60~70%台、就寝時間は21時台が最多で約半数を占めていたが、22時台の就寝も30%台と多かった。園児の起床時間と就寝時間には、園による差、男児女児による差はみられなかった。

平日の親の起床時間と就寝時間は表7のとおりで、起床時間は6時台が50~60%台、就寝時間は23時台が40%台と最多であったが、24時台が30%台、午前1時台も10%近くあった。この表

からわかるように、BC園よりD園の親の方が早寝早起きの傾向があるが、有意差がみられるほどではなかった。

表6 園児の起床時間と就寝時間（平日） N(%)

	平日・園児の起床時間					平日・園児の就寝時間				
	6時台	7時台	8時台	9時台	計	20時台	21時台	22時台	23時台	計
D園	13 (20.0)	48 (73.8)	4 (6.2)	0 -	65 (100.0)	6 (9.5)	36 (57.1)	19 (30.2)	2 (3.2)	63 (100.0)
BC園	28 (25.7)	68 (62.4)	12 (11.0)	1 (0.9)	109 (100.0)	14 (12.8)	54 (49.5)	35 (32.1)	6 (5.5)	109 (100.0)
計	41 (23.6)	116 (66.7)	16 (9.2)	1 (0.6)	174 (100.0)	20 (11.6)	90 (52.3)	54 (31.4)	8 (4.7)	172 (100.0)

表7 親の起床時間と就寝時間（平日） N(%)

	平日・親の起床時間					平日・親の就寝時間						
	5時台	6時台	7時台	8時台	計	21時台	22時台	23時台	24時台	1時台	2時台	計
D園	16 (25.0)	36 (56.3)	12 (18.8)	0 -	64 (100.0)	4 (6.8)	12 (20.3)	27 (45.8)	11 (18.6)	5 (8.5)	0 -	59 (100.0)
BC園	16 (14.8)	71 (65.7)	20 (18.5)	1 (0.9)	108 (100.0)	2 (2.0)	14 (14.1)	41 (41.4)	30 (30.3)	10 (10.1)	2 (2.0)	99 (100.0)
計	32 (18.6)	107 (62.2)	32 (18.6)	1 (0.6)	172 (100.0)	6 (3.8)	26 (16.5)	68 (43.0)	41 (25.9)	15 (9.5)	2 (1.3)	158 (100.0)

休日の園児の起床時間と就寝時間結果は表8に示した。休日の起床時間は、7時台が最多であることは平日と変わらないが、その割合は平日よりも少なくなっている。全体的にみると、平日よりも遅い起床時間になる傾向があり、それはBC園において顕著であって両園間に有意差がみられた。就寝時間は両園とも平日と変わらない。

休日の親の起床時間と就寝時間を表9に示した。園児の結果と同様に、休日の起床時間は遅くなる傾向があり、両園間に有意差がみられた。BC園の方が遅く起きる親の割合が多かったのである。就寝時間は平日とほぼ同じであった。

家族構成と親の起床時間の関係を有意差検定してみると、表10に示したように有意差がみられた。すなわち親の休日の起床時間は、三世代家族である方が核家族よりも早起きの傾向があるということである。

表8 園児の起床時間と就寝時間（休日） N(%)

	休日・園児の起床時間						休日・園児の就寝時間						
	6時台	7時台	8時台	9時台	10時台	計	19時台	20時台	21時台	22時台	23時台	24時台	計
D園	6 (9.5)	33 (52.4)	23 (36.5)	1 (1.6)	0 -	63 (100.0)	1 (1.6)	4 (6.6)	31 (50.8)	22 (36.1)	3 (4.9)	0 -	61 (100.0)
BC園	4 (3.7)	49 (45.4)	33 (30.6)	19 (17.6)	3 (3.8)	108 (100.0)	0 -	8 (7.6)	49 (46.7)	39 (37.1)	8 (7.6)	1 (1.0)	105 (100.0)
計	10 (5.8)	82 (48.0)	56 (32.7)	20 (11.7)	3 (1.8)	171 (100.0)	1 (0.6)	12 (7.2)	80 (48.2)	61 (36.7)	11 (6.6)	1 (0.6)	166 (100.0)
$\chi^2 = 13.61$ 自由度 5 $p = 0.018$							-						

表9 親の起床時間と就寝時間 (休日)

N(%)

	休日・親の起床時間							休日・親の就寝時間						
	5時台	6時台	7時台	8時台	9時台	10時台	計	21時台	22時台	23時台	24時台	1時台	2時台	計
D園	2 (3.1)	20 (30.8)	29 (44.6)	8 (12.3)	6 (9.2)	0 -	65 (100.0)	2 (3.6)	9 (16.1)	28 (50.0)	12 (21.4)	5 (8.9)	0 -	56 (100.0)
BC園	0 -	15 (13.9)	39 (36.1)	36 (33.3)	13 (12.0)	5 (4.5)	108 (100.0)	2 (2.0)	10 (10.2)	39 (39.8)	37 (37.8)	8 (8.2)	2 (2.0)	98 (100.0)
計	2 (1.2)	35 (20.2)	68 (39.3)	44 (25.4)	19 (11.0)	5 (2.9)	173 (100.0)	4 (2.6)	19 (12.3)	67 (43.5)	49 (31.8)	13 (8.4)	2 (1.3)	154 (100.0)
$\chi^2 = 20.14$							自由度 5	$p = 0.001$						

表10 家族構成と親の起床時間 (休日)

N(%)

	休日・親の起床時間													
	5時台	6時台	7時台	8時台	9時台	10時台	計							
親と子	2 (1.6)	20 (15.6)	51 (39.8)	37 (28.9)	14 (10.9)	4 (3.1)	128 (100.0)							
祖父母 ・親子	0 -	14 (37.8)	17 (45.9)	3 (8.1)	3 (8.1)	0 -	37 (100.0)							
その他	0 -	1 (14.3)	0 -	3 (42.9)	2 (28.6)	1 (14.3)	7 (100.0)							
計	2 (1.2)	35 (20.3)	68 (39.5)	43 (25.0)	19 (11.0)	5 (2.9)	172 (100.0)							
$\chi^2 = 23.42$							自由度 10	$p = 0.009$						

3. 園児の遊び

(1) 自宅での遊び時間

表11と表12には、それぞれ平日と休日における自宅での遊び時間を男児女児別に示した。
男児女児とも両園間には有意差がみられなかった。休日においても同様の結果であった。

表11 自宅での遊び時間(平日)

N(%)

		なし	1時間未満	1時間台	2時間台	3時間台	4時間台	5時間台	6時間台	計
		男 児	D園	0 -	1 (3.0)	2 (6.1)	8 (24.2)	13 (39.4)	7 (21.2)	1 (3.0)
BC園	0 -		0 -	8 (18.6)	11 (25.6)	15 (34.9)	5 (11.6)	4 (9.3)	0 -	43 (100.0)
計	0 -		1 (1.3)	10 (13.2)	19 (25.0)	28 (36.8)	12 (15.8)	5 (6.6)	1 (1.3)	76 (100.0)
女 児	D園	1 (4.3)	0 -	5 (21.7)	6 (35.3)	10 (28.2)	1 (4.3)	0 -	0 -	23 (100.0)
	BC園	0 -	3 (4.8)	16 (25.8)	24 (38.7)	14 (22.6)	2 (3.2)	2 (3.2)	1 (1.6)	62 (100.0)
	計	1 (1.2)	3 (3.5)	21 (24.7)	30 (35.3)	24 (28.2)	3 (3.5)	2 (2.4)	1 (1.2)	85 (100.0)

表 12 自宅での遊び時間（休日）

		1時間台	2時間台	3時間台	4時間台	5時間台	6時間台	7時間台	8時間台	9時間台	10時間以上	計
男 児	D園	0 -	1 (4.0)	2 (8.0)	2 (8.0)	3 (12.0)	0 -	0 -	5 (20.0)	2 (8.0)	10 (40.0)	25 (100.0)
	BC園	0 -	2 (6.3)	1 (3.1)	6 (18.8)	5 (15.6)	5 (15.6)	3 (9.4)	2 (6.3)	1 (3.1)	7 (21.9)	32 (100.0)
	計	0 -	3 (5.3)	3 (5.3)	8 (14.0)	8 (14.0)	5 (8.8)	3 (5.3)	7 (12.3)	3 (5.3)	17 (29.8)	57 (100.0)
女 児	D園	0 -	1 (5.9)	3 (17.6)	2 (11.8)	1 (5.9)	1 (5.9)	4 (23.5)	1 (5.9)	0 -	4 (23.5)	17 (100.0)
	BC園	2 (4.5)	2 (4.5)	4 (9.1)	2 (4.5)	7 (15.9)	5 (11.4)	2 (4.5)	7 (15.9)	1 (2.3)	12 (27.3)	44 (100.0)
	計	2 (3.3)	3 (4.9)	7 (11.5)	4 (6.6)	8 (13.1)	6 (9.8)	6 (9.8)	8 (13.1)	1 (1.6)	16 (26.2)	61 (100.0)

(2) 遊びの種類

表 13-1 から表 14-2 には、平日と休日における園児の 8 種類の遊びを、男児女児別に時間ごとにまとめた。これらの表からわかるように、いくつかの遊びにおいて両園間に有意差がみられた。

平日の遊びでは、男児の場合、「絵本」「お絵かき・工作」「コンピュータ遊び」「テレビ視聴」「ビデオ視聴」「戸外での運動遊び」「室内での運動遊び」において、いずれの遊びも D 園の園児に「しない」という回答が多く、遊び時間に有意差がみられた。女児の場合は、「絵本」「テレビ視聴」「室内での運動遊び」に有意差があり、男児と同じく「しない」という回答が D 園の女児に多かったのである。

休日になると、男児では 8 種類の遊びすべてに有意差がみられた。平日と同じく、どの遊びも D 園の園児に BC 園の園児よりも「しない」という回答が多かったのである。D 園男児の「テレビ視聴」と「戸外での運動遊び」は、他の遊びよりも長時間にわたって遊んでいる割合が高いのだが、それでも「しない」とする回答が 20% 以上あり、0 または 2% 台の BC 園の園児と比べると、その差は明らかである。

女児は、8 種の遊びの中で、「コンピュータ遊び」以外の遊びに、両園間に有意差がみられた。両園とも「コンピュータ遊び」は多くの女児がしていないからである。

昨年度、報告したように、BC 園の園児は、休日になると「テレビ視聴」と「戸外での運動遊び」が急増するのだが、今回、D 園の園児については熱中していると思われる遊びが特定できなかった。

表 13-1 平日の遊びの種類と時間 (男児)

N(%)

		しない	1時間未満	1時間台	2時間台	3時間以上	計	備考
おもちゃ・ ごっこ遊び	D園	8 (22.2)	9 (25.0)	12 (33.3)	5 (13.9)	2 (5.6)	36 (100.0)	-
	BC園	2 (8.0)	9 (36.0)	13 (52.0)	1 (4.0)	0 -	25 (100.0)	
絵本	D園	23 (63.9)	12 (33.3)	1 (2.8)	0 -	0 -	36 (100.0)	$\chi^2=22.36$ 自由度4 p=0.000
	BC園	1 (4.0)	21 (84.0)	3 (12.0)	0 -	0 -	25 (100.0)	
お絵かき ・工作	D園	19 (52.8)	15 (41.7)	2 (5.6)	0 -	0 -	36 (100.0)	$\chi^2=9.52$ 自由度4 p=0.049
	BC園	4 (17.4)	13 (56.3)	6 (26.1)	0 -	0 -	23 (100.0)	
コンピュ ータ遊び	D園	32 (88.9)	3 (8.3)	0 -	1 (2.8)	0 -	36 (100.0)	$\chi^2=24.36$ 自由度4 p=0.000
	BC園	6 (28.6)	5 (23.8)	7 (33.3)	2 (9.5)	1 (4.8)	21 (100.0)	
テレビ視聴	D園	11 (30.6)	4 (11.1)	11 (30.6)	10 (27.8)	0 -	36 (100.0)	$\chi^2=18.42$ 自由度4 p=0.001
	BC園	0 -	2 (5.3)	20 (52.6)	12 (31.6)	4 (10.5)	38 (100.0)	
ビデオ視聴	D園	25 (69.4)	5 (13.9)	4 (11.1)	2 (5.6)	0 -	36 (100.0)	$\chi^2=14.54$ 自由度4 p=0.005
	BC園	5 (27.8)	1 (5.6)	9 (50.0)	2 (11.1)	1 (5.6)	18 (100.0)	
戸外での 運動遊び	D園	26 (72.2)	6 (16.7)	2 (5.6)	2 (5.6)	0 -	36 (100.0)	$\chi^2=21.19$ 自由度4 p=0.000
	BC園	3 (15.0)	6 (30.0)	9 (45.0)	1 (5.0)	1 (5.0)	20 (100.0)	
室内での 運動遊び	D園	27 (75.0)	6 (16.7)	0 -	2 (5.6)	1 (2.8)	36 (100.0)	$\chi^2=23.30$ 自由度4 p=0.000
	BC園	2 (20.0)	2 (20.0)	5 (50.0)	0 -	1 (10.0)	10 (100.0)	

表 13-2 平日の遊びの種類と時間 (女児)

N(%)

		しない	1時間未満	1時間台	2時間台	3時間以上	計	備考
おもちゃ・ ごっこ遊び	D園	7 (28.0)	12 (48.0)	5 (20.0)	0 -	1 (4.0)	25 (100.0)	-
	BC園	3 (8.6)	17 (48.6)	12 (34.3)	3 (8.6)	0 -	35 (100.0)	
絵本	D園	10 (40.0)	15 (60.0)	0 -	0 -	0 -	25 (100.0)	$\chi^2=12.17$ 自由度4 p=0.016
	BC園	2 (5.9)	28 (82.4)	4 (11.8)	0 -	0 -	34 (100.0)	
お絵かき ・工作	D園	7 (28.0)	12 (48.0)	6 (24.0)	0 -	0 -	25 (100.0)	-
	BC園	2 (5.0)	26 (65.0)	12 (30.0)	0 -	0 -	40 (100.0)	
コンピュ ータ遊び	D園	20 (80.0)	4 (16.0)	1 (4.0)	0 -	0 -	25 (100.0)	-
	BC園	12 (57.1)	8 (38.1)	1 (4.8)	0 -	0 -	21 (100.0)	
テレビ視聴	D園	6 (24.0)	4 (16.0)	11 (44.0)	3 (12.0)	1 (4.0)	25 (100.0)	$\chi^2=11.46$ 自由度4 p=0.021
	BC園	1 (2.1)	4 (8.3)	28 (58.3)	13 (27.1)	2 (4.2)	48 (100.0)	
ビデオ視聴	D園	12 (48.0)	7 (28.0)	4 (16.0)	2 (8.0)	0 -	25 (100.0)	-
	BC園	10 (37.0)	10 (37.0)	5 (18.5)	2 (7.2)	0 -	27 (100.0)	
戸外での 運動遊び	D園	14 (56.0)	8 (32.0)	3 (12.0)	0 -	0 -	25 (100.0)	-
	BC園	10 (41.7)	4 (16.7)	7 (29.2)	2 (8.3)	1 (4.2)	24 (100.0)	
室内での 運動遊び	D園	18 (72.0)	1 (4.0)	2 (8.0)	2 (8.0)	2 (8.0)	25 (100.0)	$\chi^2=17.82$ 自由度4 p=0.001
	BC園	5 (20.0)	10 (40.0)	7 (28.0)	1 (4.0)	2 (8.0)	25 (100.0)	

表 14-1 休日の遊びの種類と時間 (男児)

N(%)

		しない	1時間未満	1時間台	2時間台	3時間以上	計	備考
おもちゃ・ ごっこ遊び	D園	9 (25.2)	4 (11.1)	11 (30.6)	3 (8.3)	9 (25.0)	36 (100.0)	$\chi^2=16.85$ 自由度4 p=0.002
	BC園	0 -	2 (6.9)	13 (44.8)	11 (37.9)	3 (10.3)	29 (100.0)	
絵本	D園	21 (58.3)	13 (36.1)	2 (5.6)	0 -	0 -	36 (100.0)	$\chi^2=18.93$ 自由度4 p=0.000
	BC園	2 (7.4)	17 (63.0)	8 (29.6)	0 -	0 -	27 (100.0)	
お絵かき ・工作	D園	16 (44.4)	14 (38.9)	5 (13.9)	1 (2.8)	0 -	36 (100.0)	$\chi^2=14.37$ 自由度4 p=0.006
	BC園	2 (8.3)	8 (33.3)	10 (41.7)	3 (12.5)	1 (4.2)	24 (100.0)	
コンピュ ータ遊び	D園	28 (77.8)	4 (11.1)	3 (8.3)	0 -	1 (2.8)	36 (100.0)	$\chi^2=22.06$ 自由度4 p=0.000
	BC園	5 (25.0)	1 (5.0)	6 (30.0)	5 (25.0)	3 (15.0)	20 (100.0)	
テレビ視聴	D園	10 (27.8)	1 (2.8)	5 (13.9)	11 (30.6)	9 (25.0)	36 (100.0)	$\chi^2=13.82$ 自由度4 p=0.007
	BC園	0 -	0 -	5 (13.9)	14 (38.9)	17 (47.2)	36 (100.0)	
ビデオ視聴	D園	18 (50.0)	1 (2.8)	10 (27.8)	7 (19.4)	0 -	36 (100.0)	$\chi^2=9.86$ 自由度4 p=0.042
	BC園	4 (17.4)	1 (4.3)	10 (43.5)	5 (21.7)	3 (13.0)	23 (100.0)	
戸外での 運動遊び	D園	8 (22.2)	2 (5.6)	8 (22.2)	7 (19.4)	11 (30.6)	36 (100.0)	$\chi^2=14.61$ 自由度4 p=0.005
	BC園	1 (2.8)	0 -	3 (8.3)	8 (22.2)	24 (66.7)	36 (100.0)	
室内での 運動遊び	D園	24 (66.7)	3 (8.3)	6 (16.7)	2 (5.6)	1 (2.8)	36 (100.0)	$\chi^2=19.28$ 自由度4 p=0.000
	BC園	2 (10.5)	1 (5.3)	7 (36.8)	6 (31.6)	3 (15.8)	19 (100.0)	

表 14-2 休日の遊びの種類と時間（女兒）

N(%)

		しない	1時間未満	1時間台	2時間台	3時間以上	計	備考
おもちゃ・ ごっこ遊び	D園	8 (32.2)	2 (8.0)	10 (40.0)	3 (12.0)	2 (8.0)	25 (100.0)	$\chi^2=19.02$ 自由度4 p=0.000
	BC園	0 -	13 (30.2)	17 (39.2)	11 (25.6)	2 (4.7)	43 (100.0)	
絵本	D園	10 (40.0)	14 (56.0)	1 (4.0)	0 -	0 -	25 (100.0)	$\chi^2=16.49$ 自由度4 p=0.002
	BC園	1 (2.6)	28 (73.7)	8 (21.1)	1 (2.6)	0 -	38 (100.0)	
お絵かき ・工作	D園	8 (32.0)	8 (32.0)	7 (28.0)	1 (4.0)	1 (4.0)	25 (100.0)	$\chi^2=17.31$ 自由度4 p=0.001
	BC園	0 -	15 (38.5)	18 (46.2)	6 (15.4)	0 -	39 (100.0)	
コンピュ ータ遊び	D園	16 (64.0)	3 (12.0)	4 (16.0)	2 (8.0)	0 -	25 (100.0)	-
	BC園	12 (44.4)	6 (22.2)	8 (29.6)	1 (3.7)	0 -	27 (100.0)	
テレビ視聴	D園	7 (28.0)	1 (4.0)	10 (40.0)	2 (8.0)	5 (20.0)	25 (100.0)	$\chi^2=21.92$ 自由度4 p=0.000
	BC園	0 -	2 (3.8)	13 (25.0)	18 (34.6)	19 (36.5)	52 (100.0)	
ビデオ視聴	D園	13 (52.0)	1 (4.0)	8 (32.0)	2 (8.0)	1 (4.0)	25 (100.0)	$\chi^2=12.70$ 自由度4 p=0.012
	BC園	5 (13.2)	8 (21.1)	18 (47.4)	6 (15.8)	1 (2.6)	38 (100.0)	
戸外での 運動遊び	D園	5 (20.0)	3 (12.0)	8 (32.0)	4 (16.0)	5 (20.0)	25 (100.0)	$\chi^2=14.70$ 自由度4 p=0.005
	BC園	0 -	4 (7.8)	11 (21.6)	18 (35.3)	18 (35.3)	51 (100.0)	
室内での 運動遊び	D園	16 (64.0)	2 (8.0)	4 (16.0)	1 (4.0)	2 (8.0)	25 (100.0)	$\chi^2=19.01$ 自由度4 p=0.000
	BC園	2 (7.4)	8 (29.6)	10 (37.0)	1 (3.7)	6 (22.2)	27 (100.0)	

表 15-1 と表 15-2 には、園児の好きな遊び、親がさせたい遊びをまとめた。男児女児も両園間に有意差はみられなかった。園児、親とも D 園の女兒を除いて「戸外での運動遊び」が第 1 位で 70% 以上を占めた。戸外遊びの環境には恵まれているはずの D 園の女兒が好む遊びのうち、「戸外での運動遊び」は 48% と半数に満たない。第 1 位は「おもちゃ遊び・ごっこ遊び」であった。D 園男児も BC 園より「おもちゃ遊び・ごっこ遊び」を好んでいる割合が高かった。「絵本」を好むのは D 園男児が最も少なかったが、反対に「絵本」を読ませたいと思っている親は、D 園の男児の親が最多であった。

表15-1 男児が好きな遊び・

親がさせたい遊び N(%)

		男児が好きな遊び	親がさせたい遊び
おもちゃ・ ごっこ遊び	D園	22 (68.8)	6 (19.4)
	BC園	20 (44.4)	8 (18.2)
絵本	D園	6 (18.8)	16 (51.6)
	BC園	12 (26.7)	15 (34.1)
お絵かき ・工作	D園	12 (37.5)	14 (45.2)
	BC園	17 (37.8)	22 (50.0)
コンピュ ータ遊び	D園	6 (18.8)	3 (9.7)
	BC園	15 (33.3)	3 (6.8)
テレビ視聴	D園	10 (31.3)	1 (3.2)
	BC園	18 (40.0)	1 (2.3)
ビデオ視聴	D園	12 (37.5)	1 (3.2)
	BC園	14 (31.1)	2 (4.5)
戸外での 運動遊び	D園	23 (71.9)	25 (80.6)
	BC園	32 (71.1)	37 (84.1)
室内での 運動遊び	D園	6 (18.8)	3 (9.7)
	BC園	6 (13.3)	2 (4.5)
回答者数	D園	32	31
	BC園	45	44

注) 複数回答

表15-2 女児が好きな遊び・

親がさせたい遊び N(%)

		女児が好きな遊び	親がさせたい遊び
おもちゃ・ ごっこ遊び	D園	14 (56.0)	4 (16.0)
	BC園	25 (43.1)	8 (14.3)
絵本	D園	9 (36.0)	12 (48.0)
	BC園	18 (31.0)	24 (42.9)
お絵かき ・工作	D園	12 (48.0)	8 (32.0)
	BC園	30 (51.7)	28 (50.0)
コンピュ ータ遊び	D園	4 (16.0)	1 (4.0)
	BC園	13 (22.4)	3 (5.4)
テレビ視聴	D園	5 (20.0)	1 (4.0)
	BC園	19 (32.8)	0 -
ビデオ視聴	D園	8 (32.0)	1 (4.0)
	BC園	20 (34.5)	2 (3.6)
戸外での 運動遊び	D園	12 (48.0)	22 (88.0)
	BC園	39 (67.2)	44 (78.6)
室内での 運動遊び	D園	6 (24.0)	2 (8.0)
	BC園	14 (24.1)	3 (5.4)
回答者数	D園	25	25
	BC園	58	56

注) 複数回答

(4) 遊びたい友達の数

表 16-1 と表 16-2 には、男児女児別に、保育者からみて園児が遊びたいと思っている友達
の人数を園別に示した。両園間に有意差があり、男児女児とも D 園の園児は、遊び友達の人
数は「2～3人」が最多で、BC園よりも少ない傾向がみられた。

表 17 には、親と担任の保育者からみて、園児が遊びたいと思っている友達の人数を示した。親と保育者の間には有意差があり、親は「4～6人」、保育者は「2～3人」という回答が最多であった。保育者よりも親の方が、子どもの遊び友達の人数が多いと捉えているようである。

表 16-1 男児が自分から遊びたいという友達の人数 N(%)

	友達の人数 (保育者の見方)						計
	1人	2～3人	4～6人	大勢と遊んでいる	わからない	いない	
D園	2 (6.1)	17 (51.5)	3 (9.1)	9 (27.3)	2 (6.1)	0 -	33 (100.0)
BC園	1 (1.6)	22 (35.5)	25 (40.3)	12 (19.4)	1 (1.6)	1 (1.6)	62 (100.0)
計	3 (3.2)	39 (41.1)	28 (29.5)	21 (22.1)	3 (3.2)	1 (1.1)	95 (100.0)

$$\chi^2=12.32 \quad \text{自由度 } 5 \quad p=0.030$$

表 16-2 女児が自分から遊びたいという友達の人数 N(%)

	友達の人数 (保育者の見方)						計
	1人	2～3人	4～6人	大勢と遊んでいる	わからない	いない	
D園	3 (12.0)	14 (56.0)	5 (20.0)	3 (12.0)	0 -	0 -	25 (100.0)
BC園	0 -	29 (36.7)	27 (34.2)	22 (27.8)	1 (1.3)	0 -	79 (100.0)
計	3 (2.9)	43 (41.3)	32 (30.8)	25 (24.0)	1 (1.0)	0 -	104 (100.0)

$$\chi^2=14.73 \quad \text{自由度 } 5 \quad p=0.011$$

表 17 自分から遊びたいという友達の人数 (親の見方と保育者の見方) N(%)

親の見方	友達の人数 (保育者の見方)						計
	1人	2～3人	4～6人	大勢と遊んでいる	わからない	いない	
1人	1 (100.0)	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	1 (100.0)
2～3人	0 -	17 (44.7)	11 (28.9)	10 (26.3)	0 -	0 -	38 (100.0)
4～6人	3 (4.5)	27 (40.9)	24 (36.4)	11 (16.7)	0 -	1 (1.5)	66 (100.0)
大勢と遊んでいる	3 (7.1)	14 (33.3)	10 (23.8)	13 (31.0)	2 (4.8)	0 -	42 (100.0)
わからない	0 -	1 (12.5)	3 (37.5)	3 (37.5)	1 (12.5)	0 -	8 (100.0)
その他	0 -	0 -	2 (100.0)	0 -	0 -	0 -	2 (100.0)
計	7 (4.5)	59 (37.6)	50 (31.8)	37 (23.6)	3 (1.9)	1 (0.6)	157 (100.0)

$$\chi^2=70.32 \quad \text{自由度 } 25 \quad p=0.000$$

3. 園児のけんか

(1) 友達とのけんか

表 18-1 から表 23-2 には、園児のけんかの状況について示した。保育者からみて、男児はけんかを「よくする」「時々する」「たまにする」をあわせると 80~90%に達し、けんかを「する」という回答がほとんどであり、両園間には有意差はみられなかった。女児は「時々する」「たまにする」が 60~70%を占め、「めったにしない」は 23.1%と、男児のほぼ倍の回答であり、両園間には有意差はみられなかった。「けんか」をするのは女児よりも男児に多い傾向があるといえるが、表 19 に示したように、保育者からみた園児のけんかには男児女児間に有意差はみられなかった。

親の見方によると、男児でも「よくする」は少なく、「時々する」「たまにする」が多い回答であった。女児も同様に「時々する」「たまにする」が多い回答であり、さらに「めったにしない」も多かった。したがって、親からみても、園児のけんかの発生には男女差はないということになる。

表 18-1 男児のけんかの状況 (保育者の見方・園別) N(%)

	保育者の見方					計
	よくする	時々する	たまにする	めったにしない	全くしない	
D園	7 (21.2)	11 (33.3)	10 (30.3)	4 (12.1)	1 (3.0)	33 (100.0)
B C園	25 (40.3)	16 (25.8)	15 (24.2)	6 (9.7)	0 -	62 (100.0)
計	32 (33.7)	27 (28.4)	25 (26.3)	10 (10.5)	1 (1.1)	95 (100.0)

表 18-2 女児のけんかの状況 (保育者の見方・園別) N(%)

	保育者の見方					計
	よくする	時々する	たまにする	めったにしない	全くしない	
D園	3 (12.0)	8 (32.0)	6 (24.0)	8 (32.0)	0 -	25 (100.0)
B C園	16 (20.3)	20 (25.3)	26 (32.9)	16 (20.3)	1 -	79 (100.0)
計	19 (18.3)	28 (26.9)	32 (30.8)	24 (23.1)	1 (1.0)	104 (100.0)

表 19 園児のけんかの状況（保育者の見方・男女別）

N(%)

	保育者の見方					計
	よくする	時々する	たまにする	めったにしない	全くしない	
男児	24 (32.4)	21 (28.4)	19 (25.7)	9 (12.2)	1 (1.4)	74 (100.0)
女児	16 (19.8)	22 (27.2)	25 (30.9)	17 (21.0)	1 (1.2)	81 (100.0)
計	40 (25.8)	43 (28.3)	44 (27.7)	26 (16.4)	2 (1.9)	155 (100.0)

表 20-1 男児のけんかの状況（親の見方・園別）

N(%)

	親の見方					計
	よくする	時々する	たまにする	めったにしない	全くしない	
D園	3 (8.8)	13 (38.2)	9 (26.5)	7 (20.6)	2 (5.9)	34 (100.0)
B C園	4 (8.9)	14 (31.1)	19 (42.2)	7 (15.6)	1 (2.2)	45 (100.0)
計	7 (8.9)	27 (34.2)	28 (35.4)	14 (17.7)	3 (3.8)	79 (100.0)

表 20-2 女児のけんかの状況（親の見方・園別）

N(%)

	親の見方					計
	よくする	時々する	たまにする	めったにしない	全くしない	
D園	2 (8.0)	5 (20.0)	13 (52.0)	4 (16.0)	1 (4.0)	25 (100.0)
B C園	3 (4.5)	19 (28.8)	23 (34.8)	19 (28.8)	2 (3.0)	66 (100.0)
計	5 (5.5)	24 (26.4)	36 (39.6)	23 (25.3)	3 (3.3)	91 (100.0)

表 21 には、そのことを裏付ける結果を示した。

さらに表 22-1 には男児のけんか、表 22 には女児のけんかについて、保育者と親の見方を比べた結果を示した。男児女児とも有意差がみられ、保育者よりも親の方が、園児のけんかは少ないとみているということになる。

表 23-1 と表 23-2 に示したように、男児のけんかの種類には両園において有意差があり、D 園では「物の取り合い」が最多で、B C 園では「口げんか」が最多であった。女児は両園とも「口げんか」が主なものであり、有意差はみられなかった。

(2) きょうだいげんか

表 24～表 25-2 には、きょうだいげんかの状況について示した。きょうだいげんかになると、友達とのけんかと違って「よくする」が最多の回答になる。男児女児間に有意差はみられない。

きょうだいげんかの種類は、男児の場合、友達とのけんかと同じくD園においては「物の取り合い」が最も多く、BC園においては「口げんか」が多く、有意差がみられた。女兒のきょうだいげんかも男児と同じようにD園園児に「物の取り合い」が多かったのだが、それに加えて「口げんか」の割合が多くなるため有意差はみられなかった。

(3) 友達へのいじわる・友達からのいじわる

本調査において、「友達にいじわるをするか」という質問に対して、回答の選択肢は「よくする」「時々する」「たまにする」「めったにしない」「全くしない」の5段階に分けて準備した。また「友達からいじわるをされるか」の質問に対しても同じく5段階の選択肢を準備した。その結果、「よくする」という回答は1件のみで、「よくされる」の回答は皆無であった。したがって、「よくする」「よくされる」を「時々する」に統合して集計することにした。

表 21 園児のけんかの状況（親の見方・男女別） N(%)

	親の見方					計
	よくする	時々する	たまにする	めったにしない	全くしない	
男児	7 (8.9)	27 (34.2)	28 (35.4)	14 (17.7)	3 (3.8)	79 (100.0)
女兒	5 (5.5)	24 (26.4)	36 (39.6)	23 (25.3)	3 (3.3)	91 (100.0)
計	12 (7.1)	51 (30.0)	64 (37.6)	37 (21.8)	6 (3.5)	170 (100.0)

表 22-1 男児のけんかの状況（親の見方と保育者の見方） N(%)

親の見方	保育者の見方					計
	よくする	時々する	たまにする	めったにしない	全くしない	
よくする	1 (16.7)	3 (50.0)	2 (33.3)	0 -	0 -	6 (100.0)
時々する	11 (47.8)	8 (34.8)	4 (17.4)	0 -	0 -	23 (100.0)
たまにする	8 (30.8)	8 (30.8)	7 (26.9)	2 (7.7)	1 (3.8)	26 (100.0)
めったにしない	2 (14.3)	1 (7.1)	4 (28.6)	7 (50.0)	0 -	14 (100.0)
全くしない	1 (33.3)	0 -	2 (66.7)	0 -	0 -	3 (100.0)
計	23 (31.9)	20 (27.8)	19 (26.4)	9 (12.5)	1 (1.4)	72 (100.0)

$\chi^2=33.77$ 自由度 20 $p=0.027$

表 22-2 女児のけんかの状況（親の見方と保育者の見方） N(%)

親の見方	保育者の見方					計
	よくする	時々する	たまにする	めったにしない	全くしない	
よくする	4 (80.0)	0 -	1 (20.0)	0 -	0 -	5 (100.0)
時々する	5 (22.7)	4 (18.2)	6 (27.3)	7 (31.8)	0 -	22 (100.0)
たまにする	6 (18.8)	12 (37.5)	12 (37.5)	2 (6.3)	0 -	32 (100.0)
めったにしない	0 -	5 (27.8)	4 (22.2)	8 (44.4)	1 (5.6)	18 (100.0)
全くしない	1 (50.0)	0 -	1 (50.0)	0 -	0 -	2 (100.0)
計	16 (20.3)	21 (26.6)	24 (30.4)	17 (21.5)	1 (1.3)	79 (100.0)

$\chi^2=33.42$ 自由度 20 $p=0.030$

表 23-1 男児のけんかの種類 N(%)

	親の見方						計
	口げんか	物の取り合い	物を投げる	叩く・つねる ・かむ・蹴る	取っ組み合い	その他	
D園	9 (28.1)	19 (59.4)	0 -	2 (6.3)	0 -	2 (6.3)	32 (100.0)
BC園	19 (57.6)	7 (21.2)	0 -	4 (12.1)	2 (6.1)	1 (3.0)	33 (100.0)
計	28 (43.1)	26 (40.0)	0 -	6 (9.2)	2 (3.1)	3 (4.6)	65 (100.0)

$\chi^2=12.10$ 自由度 5 $p=0.033$

表 23-2 女児のけんかの種類 N(%)

	親の見方						計
	口げんか	物の取り合い	物を投げる	叩く・つねる ・かむ・蹴る	取っ組み合い	その他	
D園	20 (83.3)	3 (12.5)	0 -	0 -	0 -	1 (4.2)	24 (100.0)
BC園	45 (75.0)	14 (23.3)	0 -	0 -	0 -	1 (1.7)	60 (100.0)
計	65 (77.4)	17 (20.2)	0 -	0 -	0 -	2 (2.4)	84 (100.0)

表 24 きょうだいけんかの状況 (男女別)

N(%)

	親の見方					計
	よくする	時々する	たまにする	めったにしない	全くしない	
男児	50 (72.5)	6 (8.7)	8 (11.6)	3 (4.3)	2 (2.9)	69 (100.0)
女児	39 (53.4)	14 (19.2)	11 (15.1)	3 (4.1)	6 (8.2)	73 (100.0)
計	89 (62.7)	20 (14.1)	19 (13.4)	6 (4.2)	8 (5.6)	142 (100.0)

表 25-1 男児のきょうだいけんかの種類 (園別)

N(%)

	親の見方						計
	口げんか	物の取り合い	物を投げる	叩く・つねる ・かむ・蹴る	取っ組み合い	その他	
D園	5 (16.7)	23 (76.7)	0 -	1 (3.3)	1 (3.3)	0 -	30 (100.0)
BC園	11 (40.7)	9 (33.3)	1 (3.7)	2 (7.4)	2 (7.4)	2 (7.4)	27 (100.0)
計	16 (28.1)	32 (56.4)	1 (1.8)	3 (5.3)	3 (5.3)	2 (3.5)	57 (100.0)

$\chi^2=11.92$ 自由度 5 $p=0.035$

表 25-2 女児のきょうだいけんかの種類 (園別)

N(%)

	親の見方						計
	口げんか	物の取り合い	物を投げる	叩く・つねる ・かむ・蹴る	取っ組み合い	その他	
D園	5 (31.3)	8 (50.0)	0 -	2 (12.5)	0 -	1 (6.3)	16 (100.0)
BC園	19 (52.8)	13 (36.1)	0 -	2 (5.6)	0 -	2 (5.6)	36 (100.0)
計	24 (46.2)	21 (40.4)	0 -	4 (7.7)	0 -	3 (5.8)	52 (100.0)

表 26-1 と表 26-2 には、園児が友達にいじわるをするかについてまとめた結果を示した。D園の男児は「めったにしない」が最多で、BC園の男児は「たまにする」が最多の回答であったが、有意差はみられなかった。女児は「めったにしない」が両園とも最多であり、有意差はみられなかった。

表 27-1 と表 27-2 には、園児が友達からいじわるをされるかについて示した。D園の男児は「めったにされない」が最多で、BC園では「たまにされる」が最多であったが、有意差はみられなかった。両園の女児も最多の回答は、D園BC園の男児と同じであり、有意差はみられなかった。

表 28 には、園児が友達にいじわるをするかと、友達からいじわるをされるかの関係について有意差検定した結果を示した。両者間には有意差がみられたので、表 29-1 と表 29-2 には男児女児別に集計した結果を示した。いずれも有意差がみられた。男児女児とも自らいじわるをするよりも、される方が多いという結果であった。

表 26-1 あなたの子どもは友達にいじわるをするか (男児) N(%)

	時々する	たまにする	めったにしない	全くしない	計
D園	6 (18.7)	10 (31.3)	11 (34.4)	5 (15.6)	32 (100.0)
B C園	5 (11.9)	19 (45.2)	14 (33.3)	4 (9.5)	42 (100.0)
計	11 (14.9)	29 (39.2)	25 (33.8)	9 (12.2)	74 (100.0)

表 26-2 あなたの子どもは友達にいじわるをするか (女児) N(%)

	時々する	たまにする	めったにしない	全くしない	計
D園	2 (8.3)	8 (33.3)	14 (58.3)	0 -	24 (100.0)
B C園	8 (13.1)	15 (24.6)	29 (47.5)	9 (14.8)	61 (100.0)
計	10 (11.8)	23 (27.1)	43 (50.6)	9 (10.6)	85 (100.0)

表 27-1 あなたの子どもは友達からいじわるをされるか (男児) N(%)

	時々される	たまにされる	めったにされない	全くされない	計
D園	5 (16.7)	7 (23.3)	16 (53.3)	2 (6.7)	30 (100.0)
B C園	5 (12.2)	22 (53.7)	11 (26.8)	3 (7.3)	41 (100.0)
計	10 (14.1)	29 (40.8)	27 (38.0)	5 (7.0)	71 (100.0)

表 27-2 あなたの子どもは友達からいじわるをされるか (女児) N(%)

	時々される	たまにされる	めったにされない	全くされない	計
D園	6 (26.1)	5 (27.1)	12 (52.2)	0 -	23 (100.0)
B C園	7 (11.1)	29 (46.0)	23 (36.5)	4 (6.3)	63 (100.0)
計	13 (15.1)	34 (39.5)	35 (40.7)	4 (4.7)	86 (100.0)

表 28 あなたの子どもは友達にいじわるをするか・友達からいじわるをされるか

N(%)

	時々する	たまにする	めったにしない	全くしない	計
時々される	10 (45.5)	6 (27.3)	6 (27.3)	0 -	22 (100.0)
たまにされる	7 (11.1)	36 (57.1)	14 (22.2)	6 (9.5)	63 (100.0)
めったにされない	4 (6.7)	7 (11.7)	43 (71.3)	6 (10.0)	60 (100.0)
全くされない	0 -	0 -	2 (20.0)	8 (80.0)	10 (100.0)
計	21 (13.5)	49 (31.6)	65 (41.9)	20 (12.9)	155 (100.0)

$\chi^2=108.87$ 自由度 9 $p=0.000$

表 29-1 あなたの子どもは友達にいじわるをするか

・友達からいじわるをされるか (男児)

N(%)

	時々する	たまにする	めったにしない	全くしない	計
時々される	4 (50.0)	3 (37.5)	1 (12.5)	0 -	8 (100.0)
たまにされる	4 (13.8)	18 (62.1)	5 (17.2)	2 (6.9)	29 (100.0)
めったにされない	2 (7.4)	6 (22.2)	16 (59.3)	3 (11.1)	27 (100.0)
全くされない	0 -	0 -	1 (20.0)	4 (80.0)	5 (100.0)
計	10 (14.5)	27 (39.1)	23 (33.3)	9 (13.0)	69 (100.0)

$\chi^2=47.85$ 自由度 9 $p=0.000$

表 29-2 あなたの子どもは友達にいじわるをするか

・友達からいじわるをされるか (女児)

N(%)

	時々する	たまにする	めったにしない	全くしない	計
時々される	5 (38.5)	3 (23.1)	5 (38.5)	0 -	13 (100.0)
たまにされる	3 (9.1)	18 (54.5)	9 (27.3)	3 (9.1)	33 (100.0)
めったにされない	2 (6.1)	1 (3.0)	27 (81.8)	3 (9.1)	33 (100.0)
全くされない	0 -	0 -	1 (25.0)	3 (75.0)	4 (100.0)
計	10 (12.0)	22 (26.5)	42 (50.6)	9 (10.8)	83 (100.0)

$\chi^2=55.9$ 自由度 9 $p=0.000$

4. 園児がいきいきするとき

表 30-1 と表 30-2 に示したのは、「園児がいきいきするのはどんなときか」について複数回答をしてもらった結果である。男児女児とも両園間に有意差はみられず、「友達と遊んでいるとき」が最多であり、次に多いのは「できなかったことができるようになったとき」であるが、3 番目の「親と遊んでいるとき」も 60% 台と高かった。特に D 園の男児女児にその割合が高かった。

表 30-1 子どもがいきいきするとき (男児) N(%)

	親と遊んでいるとき	友達と遊んでいるとき	一人で遊んでいるとき	欲しいものを買ってもらったとき	何かができるようになったとき	その他	回答者数
D園	26 (72.2)	32 (88.9)	5 (13.9)	17 (47.2)	25 (69.4)	6 (16.7)	36
B C園	23 (50.0)	45 (97.8)	5 (10.9)	19 (41.3)	29 (63.0)	3 (6.5)	46
計	49 (59.8)	77 (93.9)	10 (12.2)	36 (43.9)	54 (65.9)	9 (11.0)	82

注) 複数回答

表 30-2 子どもがいきいきするとき (女児) N(%)

	親と遊んでいるとき	友達と遊んでいるとき	一人で遊んでいるとき	欲しいものを買ってもらったとき	何かができるようになったとき	その他	回答者数
D園	19 (73.1)	23 (88.5)	3 (11.5)	9 (34.6)	13 (50.0)	4 (15.4)	26
B C園	41 (61.2)	62 (92.5)	6 (9.0)	23 (34.3)	48 (71.6)	5 (7.5)	67
計	60 (64.5)	85 (91.4)	9 (9.7)	32 (34.4)	61 (65.6)	9 (9.7)	93

注) 複数回答

5. 遊びと習い事

表 31-1 と表 31-2 には、男児女児別に、園によって習い事の有無に違いがあるかどうかを示した。いずれも「習い事なし」が過半数を占めている。保育園児の場合、降園後に習い事をする時間的な余裕は少ないものと思われる。その中で、習い事をしている割合は、男児より女児の方がやや多いという結果であった。8 種の遊びと習い事の有無の間に有意差があるかどうか、検定を試みたがいずれにも有意差はみられなかった。

表 31-1 男児の習い事の有無

N(%)

	スイミング・体操 教室など運動系	ピアノ・絵画・ 英会話など室内系	その他	習い事なし	回答者数
D園	5 (14.3)	6 (17.1)	2 (5.7)	25 (71.4)	35
B C園	7 (15.9)	6 (13.6)	4 (9.1)	29 (65.9)	44
計	12 (15.2)	12 (15.2)	6 (7.6)	54 (68.4)	79

注) 複数回答

表 31-2 女児の習い事の有無

N(%)

	スイミング・体操 教室など運動系	ピアノ・絵画・ 英会話など室内系	その他	習い事なし	回答者数
D園	4 (15.4)	8 (30.8)	3 (11.5)	14 (53.8)	26
B C園	8 (12.3)	20 (27.5)	3 (4.6)	42 (64.6)	73
計	12 (13.2)	28 (30.8)	6 (6.6)	56 (61.5)	91

注) 複数回答

6. 感情の表出

(1) 親の感情表出と園児の感情表出

表 32 には、園児と親の感情表出の関係を有意差検定した結果を示した。親の感情表出は、「まあまあ表現する」が最多で 56.4%と過半数を占め、次の「大いに表現する」が 34.6%であった。園児の感情表出は、「大いに表現する」が 74.9%を占め、残りの 25.1%が「まあまあ表現する」という回答であった。親と園児の間には有意差がみられたので、さらに男児女児に分けて、親の感情表出との関係を有意差検定してみると、男児と親の間には有意差がみられたが、女児との関係では有意差はみられなかった(表 33-1、表 33-2)。

表 34 には、園児の感情表出に男児と女児の違いがあるか、有意差検定を行った結果を示した。両者とも「大いに表現する」が 70%台を占め、有意差はみられなかった。

表 32 親と園児の感情表現

N(%)

園児の表現	親の表現			計
	大いに表現する	まあまあ表現する	あまり表現しない	
大いに表現する	55 (41.0)	70 (52.2)	9 (6.7)	134 (100.0)
まあまあ表現する	7 (15.6)	31 (68.9)	7 (15.6)	45 (100.0)
計	62 (34.6)	101 (56.4)	16 (8.9)	179 (100.0)

$\chi^2=10.92$ 自由度 2 $p=0.004$

表 33-1 親と男児の感情表現

N(%)

男児の表現	親の表現			計
	大いに表現する	まあまあ表現する	あまり表現しない	
大いに表現する	27 (46.6)	28 (48.3)	3 (5.2)	58 (100.0)
まあまあ表現する	4 (16.7)	17 (70.8)	3 (12.5)	24 (100.0)
計	31 (37.8)	45 (54.9)	6 (7.3)	82 (100.0)

 $\chi^2=6.83$ 自由度 2 $p=0.032$

表 33-2 親と女児の感情表現

N(%)

女児の表現	親の表現			計
	大いに表現する	まあまあ表現する	あまり表現しない	
大いに表現する	28 (37.8)	40 (54.1)	6 (8.1)	74 (100.0)
まあまあ表現する	3 (15.8)	13 (68.4)	3 (15.8)	19 (100.0)
計	31 (33.3)	53 (57.0)	9 (9.7)	93 (100.0)

表 34 園児の感情表現 (親の見方)

N(%)

	大いに表現する	まあまあ表現する	計
男児	58 (70.7)	24 (29.3)	82 (100.0)
女児	74 (79.6)	19 (20.4)	93 (100.0)
計	132 (75.4)	43 (24.6)	175 (100.0)

(2) 園での感情表出

表 35 には、園児が両園で、どの程度感情を表現するかについて尋ねた結果を示した。男児女児とも、親の見方よりも感情表出はおだやかになり、「大いに表現する」が男児で約 40%、女児で約 50%、「まあまあ表現する」が男児女児とも約 40%であった。両園における有意差はみられなかった。このように、園児が保育園では、感情表出をある程度は抑えているようすが伺えるが、親の見方と保育者の見方の間には有意差はみられなかった。

表 35 園児の感情表現 (保育者の見方)

N(%)

	大いに表現する	まあまあ表現する	あまり表現しない	ほとんど表現しない	計
男児	29 (39.2)	31 (41.9)	14 (18.9)	0 -	74 (100.0)
女児	41 (50.6)	31 (38.3)	6 (7.4)	3 (3.7)	81 (100.0)
計	72 (45.3)	63 (39.6)	21 (13.2)	3 (1.9)	159 (100.0)

IV. 考察および今後の課題

子どもが体を使って戸外であそばなくなったのは、「空間」「仲間」「時間」の「三間の減少」によるといわれてきた。本稿では、D園とBC園の所在地の違いに注目して、「空間」の違いが園児の遊びに影響を与えているかどうかを検証した。

1. D園とBC園の違い

結果の項で述べたように、D園は三世代家族で一戸建ての家に住んでいる割合が高く、早寝早起きの傾向があり、休日の起床時間も早起きである。特に三世代家族の場合に顕著であった。祖父母が早起きだから他の家族も早起きになるのか、祖父母がいるから気兼ねをして早起きになるのか、その理由は不明だが、D園の家族は園児も含めてBC園に比べて早寝早起きの傾向があることは間違いない。

したがって、D園とBC園の間には、自然環境の違い、生活環境と生活習慣の違いがあって、両者を比較検討する根拠が得られたことになる。

2. 遊び

両園とも保育園であるため、園児の遊び時間には差がない。遊びの種類ごとに比較すると、特に男児において両園間に多くの有意差がみられた。これはD園の園児に、それらの遊びを「しない」とする割合が多かったことによって算出された結果である。

D園男児が好む遊びの第一位は「戸外での運動遊び」、第二位は「おもちゃ・ごっこ遊び」であったが、実際には、それらを「しない」とする割合がBC園男児よりも多かった。「空間」に恵まれているはずのD園園児は、予想に反して「戸外での運動遊び」をしておらず、BC園園児よりも少ない位であった。さらにBC園の園児に多い「テレビ視聴」も「しない」とするD園園児が多かったのである。つまり、多くのD園園児が熱中している「遊び」を特定することができなかつたということになる。遊びたい友達の人数は、男児女児ともBC園よりもD園の方が「2~3人」と少なかった。遊びの種類においても、友達の人数においても、D園の方が「遊びが活発でない」と思わせる結果であった。

3. けんか

幼児が友達と遊んでいれば、必ずけんかは発生し、それだけ密接に関わっているともいえるわけで、けんかをするのが必ずしも悪いこととはいえない。

保育者からみると、どちらの園児もよくけんかをしているという結果で、両園に差はなかったが、けんかの種類はD園園児に「口げんか」よりも「物の取り合い」が多く、いかにも幼児らしいけんかを思わせる。

友達へのいじわるや友達からのいじわるは、けんかとは少し趣が異なる。自分の子どもがいじわるをすることよりも、されることの方が多というのが親の見方であり、両園において有意差

はなかった。BC園よりもD園の方がいじわるをしないし、されることも少ないという傾向があり、D園園児は「少々おとなしい」とみることができるのではないだろうか。ただし、このことと遊びが活発でないということとの関連は明らかではない。

4. 親との遊び

本調査において、8種類の遊びを取り上げたが、その中に「親と遊ぶ」という項目は入れていなかった。園児がいきいきしているのは、「友達と遊んでいるとき」が最多の回答であったが、「親と遊んでいるとき」も60%と多かった。特にD園園児にその傾向が強く、D園園児が熱中するのは、親との遊びかもしれない。昨今の社会状況を考えれば、幼児を大人の付き添いなしに戸外へ出すことは危険を伴うとして、幼児が戸外へ出ることで自体が減っているのかもしれない。その結果、親が付き添うことが多くなれば、親と遊ぶ機会が増えてくることは当然のこととして予測できる。

さらにD園の園児に限らず、特に幼児の場合は、住田(1995)が指摘しているように、「現代社会の家族関係が子ども中心になり、親は子どもの欲求を満たすことで家族の愛情関係を維持しようとする。過剰に親和的、友愛的であり、親が友達代わりになっている」傾向があるのかもしれない。

昨年度の報告にも記したが、今後は、これらの点を視野に入れて調査してゆきたい。

5. 習い事

もともと保育園児には習い事をする時間的な余裕は少ないのだが、「習い事のために遊ぶ時間がない」という、「三間」のうちの「時間」の仮説は、保育園児を対象とした今回の調査結果では明らかにすることはできなかった。

6. 感情表出

どんな場合でも、相手に自分の感情をストレートに表出することは、喜びの分かち合いにもなるが、けんかの原因にもなることも少なくない。園児の感情表出が親のそれと似ているかを検定したところ、女兒の場合を除いて有意差が得られた。有意差があるということは、似ていないということである。今後、回答者が男親か女親かも含めて、調査してゆかなければならない。

その一方で、園児は自宅よりも保育園の方での感情表出を抑えているようである。園児はどのように感情を自己コントロールしているのか、興味深い研究テーマである。

今回の調査対象は、「空間」に恵まれた保育園がD園の1園だけであったため断定はできないが、遊ぶ「空間」があっても、幼児は必ずしも戸外で遊ぶわけではないということが示唆された。

「三間がない」というだけでは、子どもの戸外遊びが減ってきている理由を説明できなくなっているのである。

参考・引用文献

- 1) 井狩芳子 窪龍子 野田耕「幼児の心身の健康に関する研究（第一報）」和泉短期大学研究紀要 第23号 2002
- 2) 井狩芳子 窪龍子 野田耕「幼児の心身の健康に関する研究（第二報）」和泉短期大学研究紀要 第24号 2003
- 3) 窪龍子 井狩芳子 野田耕「幼児の心身の健康に関する研究—幼稚園児と保育園児の遊びの調査（1）—」実践女子大学人間社会学部紀要第一集 2005
- 4) 住田正樹『現代社会の変容と子どもの仲間集団』内田伸子ほか編「講座 生涯発達心理学 第3巻 子ども時代を生きる—幼児から児童へ」金子書房 1995

謝辞：今回の調査にご協力いただいた保育園の園長先生をはじめ、担任の諸先生方、園児の皆さんと父母の方々に感謝の意を表します。